

サイエンス・アクセスの深化をはかる

1年生34名が岩手県立大学研修に参加

サイエンス・アクセス岩手県立大学研修を10月15日（土）に実施し、1年生34名が参加しました。今回実施したのはサイエンス・アクセスで探求学習している大テーマの「医療」「福祉」「情報」の3つに関わる内容です。看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部の3学部で学びました。それぞれの学部での研修を通して、現在行っている探求学習がさらに発展することを目指したほか、大学での研修を通して、進路に対する理解を深めました。現在サイエンス・アクセスでは、クラスごとの発表会が始まっています。大学研修で学んだことやクラス発表会での質問や意見を生かし、1月に学年全体で行われるポスター発表会に向けて、内容が深まっていくと期待します。

① 医療コース 「被災者のエコノミー症候群を防ぐ」

看護学部 井上都之 先生

血管の構造や、エコノミークラス症候群の発生メカニズムを基礎から学習しました。また、被災地で治療のデータをもとに発症の原因や、リスクについても考察し、学習した内容をもとにした実験（超音波によるヒラメ筋静脈の観察や血管年齢の測定など）を行いました。看護系を希望する参加者が多く、様々な実験にも臆すること無く熱心に実習を行っていました。大学での実習を経て、より進路目標を明確にする機会となりました。



② 福祉コース 「人口減少と少子高齢化の中での地方自治体の福祉行政を考える」

社会福祉学部 齋藤昭彦 先生

地方自治体の福祉行政について具体的な取組の現状や課題について講義を聴き、グループ討議をして発表を行いました。また、調査に必要なデータの収集や分析方法を学び、エクセルでグラフ作成をしました。参加者はグループ討議やグラフ作成など意欲的に取り組みました。また、社会福祉学部で学ぶことの一端に触れ、進路選択という面でも効果的な研修となりました。



③ 情報コース 「震災復興をコンピュータで予想しよう！」

ソフトウェア情報学部 後藤裕介 先生

フローチャートの演習を通して情報処理の基礎を学びました。その後、動画を用いて、人工知能のプログラミングについて理解を深めました。また、大船渡市のデータを用いてCFW（cash for work）のシミュレーションを行いました。参加者は、演習やシミュレーションに熱心に取り組みました。情報系の志望者だけでなく、文系志望の生徒でも興味をかき立てられる内容で、各生徒の今後の進路選択に関して有意義な研修となりました。

